

研究大会の成功のために

埼玉県私立中学高等学校協会 会長 小川 義男



「埼玉教育の創造と指導力の向上」というテーマで、今年の研究大会は行われる。

創造とは、現代教育の足らざるを知り、新しき明日を目指す活動である。それを目指して、埼玉私学の「叡智」が結集するものこそ、埼玉私学教育研究大会に外ならない。

新しいものを求めると称しつつ、将来の大学入試は、大幅に民間テストに依存する形を取ろうとしている。大学は、自分で明日の学生を選考する力がないのか。

小学校に英語を取り入れるためと称しつつ、夏休みさえ短縮する気配がある。性急な学校五日制を取り入れて「ゆとり教育」を行おうとしたのは、文部科学省だったのではないのか。「ゆとり精神」は、一体どこへ行ってしまったのか。そもそも、それほどまでして、英語教育を行わねばならぬ事情が、本当に存在するのか。

このように性急な変革を求める、グローバリズムとは、そもそも何であったのか。

学校のすべての段階を通して、国語力は、気も遠くなるほどに低下している。自国の言語に弱い国民が、世界の人々から本当に尊敬されるであろうか。

もっとも、加計学園問題で、元文科次官は、気負わぬが、権威に屈せぬ気概を見せた。文科省全体にも、それへの共感が感じられる。文科省は、私の考えなどより、遙かに愛国的分子の結集する所であるのかも知れぬ。

教育の一大変革期、彼らとも手を結び、日本の教育を更に一層発展させて行こう。

「幅広い学びを」

埼玉県私立中学高等学校協会 研究・研修部長 深澤 一博



私達私学教育に携わる者にとって、自校の持つ伝統と特色を生かしながら、魅力ある学校をどのように作り上げるかが大きな課題であります。生徒にとっては、毎日接する先生が自分にとって、大切な事をどう教えてくれるかが大事な問題であり、学校選択の大きな動機になります。

それを迎える先生の実力をどう上げ、魅力あるものとするかが、この研究大会を開催する大きな意義となります。

生徒にとって学ぶ事は、生きるためには何が必要かを学ぶ事につきます。そこには、将来経済的に自立する事も前提になります。かつては日本では学ぶ事はどこでも出来たのです。家庭では両親が躾をし、青年団等を通じ人付き合いや異性との付き合い方を先輩から指導され、生きるために最低必要な社会の決まりや掟を学んだものでした。

ところが現在は親御さんも世間も、皆一様に学校に全ての事を任せてしまっています。従って良い悪いは別としても、学校は多くの要請に応えなければならない実情となっています。本来は学校の中での必要性が無かったとしてもです。

この研究大会は教科を始めとし幅広く様々なものを用意しています。皆さん方は自分が必要だと思った研究会場に参加し、学びを仲間とともにして下さい。同じ仲間の存在はとても勇気を与えてくれます。皆さんにとってそれが明日への活力の源となる事を期待して止みません。